

# 双腕ロボ型バリ取り装置



引き合いを増やしているバリ取り装置「SVM-SDA」

## 日本省力機械

省力機械メーカーの日本省力機械(伊勢崎市福島町1-73、田中章夫社長☎0270-3403111)はこのほど、産業用ロボットメーカーの安川電機(福岡県北九州市)と共同で、プラスチック加工向けの双腕ロボ型バリ取り装置を開発した。ワークのセットを機械化する一方、装置特有の人間の両腕のような双腕を駆使することで、樹脂成形からバリ取り(トリミング・穴あけも可)に至る一連の工程を一貫処理できるもの。従来からある自動化システムと比較すると、製品の取り出し機はもちろん、固定治具なども要らないため、工場内無人化にまつわるトータルコストを大幅に削減できる。すでに複数の受注を確保しているほか、展示会などを通じて引き合いを増やしており、新たな事業柱に育成していく方針だ。(塚越吉洋)

## 安川電機と共同開発

### トリミングなども可能

開発した双腕ロボ型バリ取り装置「SVM-SDA」は、射出成形したプラスチック製品を片方の腕で真空ポンプにより吸引してつかみ取る一方、超音波カッターを装着したもう片方の腕で、ワークを削いながらバリ取りしてしまおうという仕組みだ。樹脂は熱収縮しやすい

く、安定しづらいため、から正確にバリ取りを施すことは困難とされてきた。ワークの形状をならいなく、安定しづらいため、から正確にバリ取りを施すことは困難とされてきた。

### ロボット産業振興へ

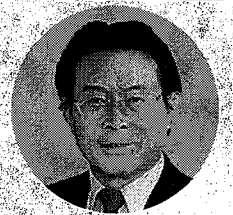
#### 県が初の講演会開催

県工業振興課は8月3日、群馬産業技術センター(前橋市亀里町)で、初開催となる「群馬県ロボット産業振興講演会」を開く。

当日は、富士重工の担当者が、「ぶつからない車(アイサイト搭載車)」に関する先端技術をテーマに講義するほか、「県内で活躍するロボット関連産業」をテーマに、日本省力機械(伊勢崎市)の田中章夫社長と古川製作所(太田市)の牧田哲夫常務が事例発表を行う。

県工業振興課は8月3日、群馬産業技術センター(前橋市亀里町)で、初開催となる「群馬県ロボット産業振興講演会」を開く。

また、アイサイト搭載車の走行実演や小惑星探査ロボット・災害地情報収集ロボット(IIIEエアロスペース提供)のデモンストレーションなども予定している。



田中社長

を自動化する場合、専用のバリ取り装置はもちろん、成形機からの取り出し機、ワークごとのセット治具なども不可欠。コスト・手間ともに掛かり過ぎるため、採用は一部に限られており、中小の製造現場では大半が手作業によりバリ取り作業を行っている。

機械を集約した双腕型装置はこうした中小企業にも受け入れられると見ており、日本省力機械のほか、安川電機子会社の安川メカトロック(東京都港区)とともに、販促